

春季九州学生リーグに参加して

古谷裕邦

5月3日に福岡大学で行われていた「九州学生リーグ」に河野審判員と参加した。今回も自身の審判力の向上をと思ってである。1試合目は男子Ⅱ部の熊本大―九共大を担当した。河野審判員と役割分担をはっきりすることと、ワンプレーの間に必ず目線を合わせようという目標を確認して臨んだ。試合はどちらもⅠ部に入ろうとする勢いのあるチームで、前半は若干差が開いたものの後半は一進一退の攻防が続いた。吹きがいのある試合だった。試合自体はケガなく進めることが出来たと思う。二人で立てた目標については、役割分担は割とうまくいったが、目線を合わせることについてはやや出来なかったので、今後の反省材利用としたい。2試合目は女子の福岡大―九共大の試合を吹いた。一方的な試合になった。最後まで走って丁寧に吹くことを心がけた。2試合通して感じたことは、大学生がフリースロー等3mの距離を守らないということである。指示しても守らない時の警告について考えさせられた。またパッシブプレーのタイミングとパッシブ解除について不安を感じた。その点については今後磨いていかねばと思った。

さて審判資格をとって23年。ただD級を持っていただけの13年間から、上級をめざしての10年が経過した。この間色々な指導を受けた。持っていただけのD級時代。未熟だったC級時代。「オフィシャルとの連携不足」の理由で落とされた1回目のB級審査。審査委員長に「なんであなたがB級なの？」と言われて意外と簡単に合格した2回目の審査。審判資格を取得して以来、たくさんの方々に指導をいただいた。これまで受けた指導の中で、審判のスタイルについては人によって指導が若干違っていて混乱することもあった。ただその中で学んだのは自分のスタイルをつくりあげていかねばならないということである。今後新たに審判になれる方には是非そのことを意識して吹笛に励んで欲しいと思っている。次に自分がこれまでに学び、今意識してやっていることをいくつかあげたい。私自身も、まだまだ出来ない部分もたくさんあるが今後吹笛をする若い人に参考にしてもらいたい。

レフェリングで大切にしていること

①事故・ケガのない安全な試合へと気を配る。

- ・他のどれよりも大切

②ペアレフェリーと役割分担をしっかりとる。見ている人が違和感のない笛を吹く。

- ・ゴールレフェリーはゴールエリアライン付近の攻防や自分の近くコート中心に吹く
(ゴールレフェリーなのに、すぐボールに目線が行く人が多い)
- ・ペアと目線を合わせる
- ・入れ替わりは警告・退場、やタイムなどの時にする。時間で入れ替わったりしない。

③プレーがよく見える位置取りをし、よく見て吹く。

- ・「だろう」で吹かない。見たプレーを確実に吹く。オーバーは数える。近くで吹く。

④笛は大きく、はっきりと吹く(もちろん強弱・長さを考えて)

- ・笛はくわえっぱなしにしない。

⑤走る。(最近はあまり走らない人がいる)

- ・フリースローはその場所に行く。出来る限り近くでボールを見る。まず方向指示。そしてゼスチャー。
- ・ターンオーバーの時などは近い方のレフェリーが吹く。

⑥ルール通りに吹く。(段階罰やフリースローなどルールに精通する)

- ・基本的に罰則のつかない7mはない(…と習いました) など
- ・警告の後、何の反則なのかのゼスチャーをはっきりする。

⑦ボールから目を離さない

- ・自分のゴールの得点の後、目を絶対に切らない。目を切ると、スローオフの時の反則が見えなくなる。相手側の得点は目を切らない人がほとんどだが、自分のゴール側は目を切る人が多い。

細かい部分はまだまだあると思うが、ここにあげた6つは自分が吹くときに大切にしていることである。また審判を始めてよかったと思うのは「自分のチームに還元できる」ということである。ルールが毎年変化していく中、指導者としてルールに精通していないとチームの指導に影響をあたえるのは間違いない。「いい審判がいれば、チームは強くなる」・「強いチームにはいい審判がいる」という話も聞くくらいなので、各チームの指導者には是非とも資格を持って、毎年 of 審判研修に参加して欲しいと思う。以上、九州学生リーグに参加してのレポートとする。